

炎症性皮膚疾患の発症と慢性化の機序の解明

教授・加藤則人からのメッセージ

炎症性皮膚疾患の病態に関する基礎および臨床研究を行っています！



キーワード

免疫、アレルギー、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、乾癬、円形脱毛症

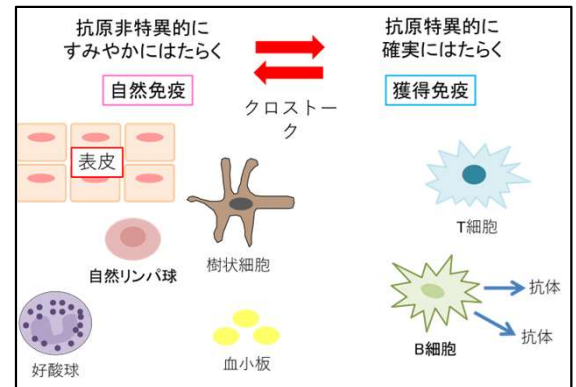
研究の概要

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、乾癬、円形脱毛症などの炎症性皮膚疾患の病態における自然免疫と獲得免疫の役割を解明するために、ヒトサンプル（血液、角質、皮膚組織など）を用いた臨床研究と、皮膚疾患モデル動物などを用いた基礎研究を中心に行っています。

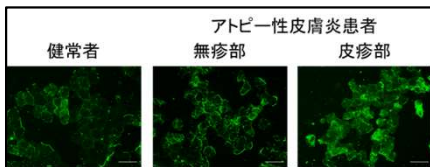
研究内容

生まれながらに備わり、抗原非特異的にすみやかにはたらく自然免疫と、抗原特異的に確実に はたらく獲得免疫のクロストークにより、さまざまな炎症性皮膚疾患の病態が形成されていることが分かってきています。

私たちは、アトピー性皮膚炎などの炎症性皮膚疾患の患者さんの血液や角質などを用いた臨床研究により、血小板活性やToll様受容体発現がその疾患の重症度と関連していることなどを見出しました。また、その機序を明らかにするために、血小板減少マウスやToll様受容体を欠損したマウスなどを用いた基礎研究により、アトピー性皮膚炎などの炎症性皮膚疾患の病態に自然免疫と獲得免疫が互いに作用して関与していることを解明しました。

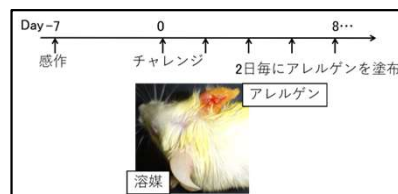


臨床サンプルを用いて研究を行っています



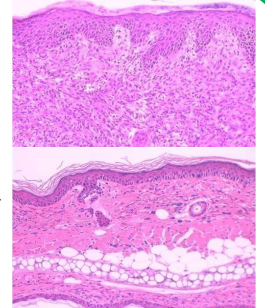
アトピー性皮膚炎病変部で角層中Toll様受容体の発現が増強します

皮膚炎モデル動物を用いて研究を行っています



正常マウス

血小板減少マウス



アトピー性皮膚炎モデルマウスでは、血中血小板を減少させると、炎症反応が減弱します

今後の展望

臨床に還元できる研究を行うことを心がけて、炎症性皮膚疾患の病態における自然免疫と獲得免疫の解明とそれを活かした新規治療法の確立を目指しています。